

令和4年9月16日

貝塚市議会議長 殿

視察・研修会報告書

報告者 平岩征樹

参加者 平岩征樹

JISSEN 自治体政策青年ネットワーク 2022 年度年第 2 回研修会

開催日：令和4年8月18日（木） 13：00～13：30

会場：ドコモショップ札幌店

ドコモショップ札幌店とジモティとの連携による子ども服、絵本リサイクルの取り組みの現地視察。

ドコモショップ札幌店で行われている「ジモティすくすくバトン」いう取り組み。ドコモショップの一角にある、地域情報発信サイト「ジモティ」が扱っているユーズド、使用済みこども服や絵本のリユースを行っている拠点を視察。ドコモショップに来店した方は無料で、ひと家族2点までワゴンの中にある好きな子供服を無料でもらうことができる。

中の洋服は少し毛玉があったり、使用感のあるものもあつたりしたが、可愛いデザインのものやブランドのものもあり、まだまだ着られるものだった。店内には、いらなくなった子供服や絵本を入れる回収ボックスもあり、絵本については持ち込んだのと同じ冊数の絵本を受け取る、物々交換も可能。絵本のリユースも、可愛らしくラックに並べられていましたが、アンパンマンの絵本や、絵が可愛くて人気の絵本などもあり、お子さんをお持ちの方にとっては嬉しい取り組みだと感じた。

開催日：令和4年8月18日（木） 13：45～15：30

会場：ippo 札幌セミナー室

リサイクルの促進、自治体とジモティとの連携

講師：環境コンサルタント 関根久仁子氏

ジモティが自治体と連携した取り組みの事例として、全国49の自治体と協定を結び、「リユースによるゴミの減量」に取り組む事例のお話も伺った。ごみ減量事業としては、北海道では北見市、東京の八王子市、川崎市などで、自治体が回収したリユース品の譲渡をジモティを活用して実施したところ、リ

ユース品の9割の譲渡が完了し、多くは掲載から1～2日で譲渡先が決まるといふ。

世田谷区では、ジモティを使って粗大ごみを必要な方にリユースする取り組みをしたところ、1年間で1200品、3ヶ月で53トンもの粗大ごみの減量につながるといふ効果があつた。

ジモティは、利用者が1000万人おり、月間8億のページビューがあるサイトで、多くの方がものを手放す際、ネットでジモティを検索するといわれている。

通常、ジモティーを使う場合、あげる側と受け取る側が連絡をとって受け渡し方法を決め、直接対面でお会いして商品のやり取りをする、といふやり方を取るが、連絡や調整をするのが面倒、顔を知られたくない、(身バレしたくない)トラブルを避けたいといふ方も多い。

そこで、行政やドコモショップなど民間企業のお店やスペースを使って、「いらなくなったけどまだまだ使えるもの」をあげたりもらったりすることが安心してできる場所をつくることはとてもいいアイデアだ。

開催日：令和4年8月18日(木) 15:30～17:00

学校改革の取り組み「本気で挑戦する人たちの母校」

講師：札幌新陽高等学校 前校長 荒井 優氏

2016年に教育“素人”ながら祖父が創立した札幌新陽高校の校長に就任され、「本気で挑戦する人たちの母校」をスローガンに掲げ、ベンチャーマインドで次々と学校改革に取り組んだお話を伺つた。

荒井前校長の就任後新陽高校は 定期テストをやめたり、偏差値ではなく経験値を重視する「探究コース」を新設したり、さまざまなチャレンジを行われた。また、北海道独自の緊急事態宣言が出た翌日(2月28日)からオンライン授業を始めるなど、4年前からデジタル化を進め、生徒全員にiPadやタブレットを持たせてICT教育を実践。

札幌新陽高校の教育理念や、学力強化のお話、探求型教育、ICTを活用した学びなどについて、大変わかりやすいお話で、「学びとは」「学校教育とは」を根底から考えさせられるものだった。

開催日：令和4年8月19日（金）10：00～12：00

札幌市子ども発達支援総合センター・ちくたく

発達に遅れや障害があったり、心に悩みを抱えたりする子どもに対して、医療、福祉の面で一元的にアプローチをする札幌市の施設。

病気や障害など、ケアが必要な子ども達をいろいろな面からサポートする全国でも珍しい施設だ。

「ちくたく」は医療施設や障害児の方の入所施設、通所施設などの8つの施設から構成されている。

「ちくたく」の成り立ちは、もともとは病院で、市立札幌病院の精神科病棟の児童部門が、平成24年に札幌市の健康福祉局に移管し、平成27年に発達の遅れや障害のある子供たちに対し医療、福祉支援を総合的に提供する複合施設としてリニューアルオープン。医師が常時配置しているということも大きな特徴になっている。

説明を伺ったのちに、施設の一部を見学させて頂いた。

